



法人運営目標

1) 生産性向上を行い、介護の価値を高める

質の高い介護サービスを提供するために、業務を見直し、ムリ・ムダ・ムラに気づき、その気づきを職場内外で共有し、出来ることよりPDCAサイクルを回しながら業務の効率化と改善を図っていく。そして、業務効率化で産み出した時間を、高齢者が生きがいを持ち尊厳ある人生を楽しめるように、生活を再構築していただくために使う。結果として、働きやすい職場で、専門的な仕事を行い、貢献意識が持てる魅力的な職場を創る。

2) 地域貢献を行い、自身の多様な能力を見つめなおす (新たな人材育成)

地域包括ケアシステムの中での役割を理解し、介護保険給付サービスは基より、保険外の活動にも積極的に参画して、地域住民が尊厳ある生活を送れるように貢献する。まず、法人内外の多職種とインターネットを活用し、積極的に情報共有を行い、チームケアを実践する。さらに、サロン活動や、オンライン(Zoom)を利用して情報を発信し、延期したアップル学園前カレッジの企画・運営に繋げていく。カレッジ運営等を介して、役割を持ち生きがいのある生活を提案することで、法人並びに職員個人の多様な能力を開花させ、仕事の楽しみを実感する。



法人運営指針

○法人運営指針

1. 生産性の向上

- (1) 入所から退所までや、在宅サービスの提供から終了まで等の一連の業務の流れを、サービスの質の向上と業務効率化の視点から全体として最適なものとするために、法人全体として取り組む。
- (2) 職場環境の整備
5Sの視点で安全な環境と働きやすい職場を整備する。
- (3) 業務の明確化と役割分担
業務の明確化と役割分担の見直しにより、ムリ・ムダ・ムラ(3M)を削減して、業務全体を再構築する。
- (4) 手順書やマニュアルの整備
職員の経験値、知識を可視化・標準化することで、若手を含めた職員全体の熟練度を高める。
- (5) 記録・報告様式の工夫
項目の見直しやレイアウトの工夫等により、情報を読み解きやすくする。
- (6) 情報共有の工夫
ICTなどを用いて転記作業の削減や、一斉同時配信による報告申し送りの効率化、情報共有のタイムラグの解消を図る。
- (7) OJTの仕組みづくり
日常業務を通じた人材育成の仕組みを作る。職員の専門性を高め、リーダーを育成するため、教育内容の統一と指導方法の標準化を図る。
- (8) 経営理念・目標・指針の徹底
経営理念や目標、指針に基づいて、自律的な行動がとれる職員を育成する。

2. 介護サービスの価値を高める。

- (1) 介護サービスの価値を高める方策を検討・実施する。

3. リスクマネジメントの実践

- (1) 新型コロナウイルスへの対応
自身の心身の健康管理と感染予防の徹底を継続し、利用者に安全で充実した生活を送って頂くための対策を実施する。
- (2) 業務継続計画(BCP)の策定
感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、業務継続計画(BCP)の策定、研修の実施、訓練(シミュレーション)を実施する。
- (3) 情報セキュリティの強化
人為的ミス・サーバー攻撃・ウイルス感染等による情報漏洩への対応を強化する。

4. 令和3年4月介護報酬改定への対応

- (1) 科学的介護情報システム(LIFE)への取り組みを推進する。
- (2) 令和3年4月介護報酬改定に沿って、委員会制度を再整備する。

5. 地域貢献について考え、実践する。

以上